

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	倫理学 3単位 30時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	竹之内裕文	
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>7つの看護領域（基礎、小児、母性、成人・老年、地域・在宅、精神、看護の統合と実践）でのグループ実習と連動して授業を進める。各グループからの実習報告に基づいて、また7つのテーマ（「対話」、「死別」、「倫理」、「死」、「在宅」/「病院」、「チーム」、「看護」）について、人権を尊ぶ姿勢をもち、対話を通じた探究を進める。それを通して本学の5つの教育目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を尊び、個人をかけがえのない存在として尊重する態度を養う。 2. 看護の対象である人間を 総合的に理解する能力を養う。 3. それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、実践できる基礎的能力を養う。 5. 看護の実践者として向上心・研究心を養い、主体的学習態度を身につける。 		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ガイダンス（到達目標、具体的な進め方、成績評価、対話の準備） 「対話」をめぐる対話～対話するとはどういうことか？対話にはどのような意義があるか？	講義・演習
2回目	チーム・ビルディングとダイアログ～「チーム」と「対話」の意義をめぐって	講義・演習
3回目	絵本を題材にした対話～『かないくん』（谷川俊太郎作・松本大洋絵）	講義・演習
4回目	実習の報告に基づく対話①	講義・演習
5回目	実習の報告に基づく対話②	講義・演習
6回目	実習の報告に基づく対話③	講義・演習
7回目	「倫理」をめぐる対話～看護師には、どのような「倫理」が求められるか？	講義・演習
8回目	「死」をめぐる対話～患者の死を家族とともに、どのように受けとめるか？	講義・演習
9回目	「在宅」/「病院」をめぐる対話～患者が身をおく場として、自宅、施設、病院にはどのような違いがあるか？	講義・演習
10回目	実習の報告に基づく対話④	講義・演習
11回目	実習の報告に基づく対話⑤	講義・演習
12回目	実習の報告に基づく対話⑥	講義・演習
13回目	実習の報告に基づく対話⑦	講義・演習
14回目	「チーム」をめぐる対話～よいチームとはどのようなものか？	講義・演習
15回目	「看護」をめぐる対話～よい看護（師）とはどのようなもの（人）か？	講義・演習
評価方法	以下のポイントを合算して評価する。1) フィードバックシート：10点満点×6回＝60点、2) グループでの実習の報告20点満点（チーム内相互評価）、3) 全体対話での発言1回あたり4点。	
受講生に対するメッセージ	授業は、実習の報告に基づく対話（7回）とテーマ（絵本）をめぐる対話（7回）から構成されます。実習の報告は、実習グループ（「チーム」）単位で行っていただきます。テーマをめぐる対話の準備として、フィードバックシートの設問に対して回答したうえで、授業に臨んでください。	

テキスト	使用しない。
参考書	『死とともに生きることを学ぶ——死すべきものたちの哲学』(竹之内裕文著、ポラーノ出版)、 『喪失とともに生きる 対話する死生学』(竹之内裕文・浅原聡子編、ポラーノ出版)